

令和5年度 弘前市総合計画審議会 議事概要 (第1回)			
日 時	令和5年7月21日(金) 17時30分～19時20分		
場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室及びオンライン	傍聴者	0人
出席者	委員 (15人)	【会場出席(13人)】 森会長、今村委員、鴻野委員、棟方委員、藤田委員、 淀野委員、田澤委員、小山(悟)委員、清藤委員、 鈴木委員、斎藤委員、成田(幸)委員、外崎委員 【オンライン出席(2人)】 高島委員、崎野委員	
	事務局 (6人)	企画部長、企画課長、企画課参事兼課長補佐、 企画課主幹、企画課総括主査、企画課主査	
	その他		
会 議 概 要			
1 開 会			
2 委嘱状交付 ○企画部長から棟方 悟 委員、成田 幸男 委員に対して委嘱状を交付。			
3 議 事			
(1) 令和5年度弘前市総合計画審議会の進め方について ○事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。			
(2) 弘前市総合計画リーディングプロジェクトの一次評価について ○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
【リーディングプロジェクト「(1) 誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり」】 ・指標「障がい者が安心して生活できるまちであると思う市民の割合」について、障がい者本人が「安心して生活できるまちである」と思えるかどうかが大事なので、より適切な指標を設定していただきたい。 ⇒担当課では、障がい福祉の個別計画を現在策定中であり、その一環で、障がい者に対して直接、アンケート調査を実施することで調整中である。 なお、後期基本計画のリーディングプロジェクトでは、設定する指標の見直しを行っている。			

- ・指標「障がい者が安心して生活できるまちであると思う市民の割合」について、2022年度の実績値が低いため、2024年度の方向性の欄に、障がい者福祉の充実に
ついて踏み込んだ記述をするべき。

⇒分野別政策⑤福祉の評価シートの記載内容も踏まえ、追記する。

【リーディングプロジェクト「(2) 安心できる医療体制と健康長寿の推進」】

- ・「2024年度の方向性」の欄に、「すべての妊産婦、子育て世帯及び子どもに対し一
体的な相談支援を実施し、」とあるが、「一体的な」とは具体的にどういうことか。
⇒ヒロロ内にある子育て世代包括支援センターと、保健センター内にある母子保健
の担当が、しっかりと連携を取れるような体制を現在検討中である。
- ・中心的な役割を担う場所や人をしっかりと決めて取り組んでいただきたい。

- ・「高齢者介護予防運動教室事業」について、冬に参加者を送迎する取組をモデル的
にでもいいので実施してはどうか。

⇒いただいたご意見を担当課に伝える。

- ・指標「肥満傾向児の出現率」の中2男女について、基準値と目標値が1ケタなのに
実績値は2ケタになっているが、これはどういうことか。

⇒基準値としている2017年度は実際に一桁台の数値であったが、コロナ禍での外出
制限等により運動する機会が減ったこともあって、肥満傾向児の出現率は上昇傾
向である。このため後期基本計画においても、コロナ禍前以上に出現率を低下させ
ることを目標にしている。

- ・運動をする機会を増やしていくよう、しっかりと取り組んでいただきたい。

⇒後期基本計画のリーディングプロジェクト「ひとの健康」では、こどもたちの運動
の推進に取り組んでいくこととしている。いただいたご意見を担当課に伝える。

【リーディングプロジェクト「(3) 地域を担うひとづくり」】

- ・インプット、アウトプットの評価が○でも、指標が△であれば総合評価も△になっ
ているが、取組の効果が反映される、適切な指標を設定できれば、成果をしっかり
示すことができるということに留意していただきたい。

【リーディングプロジェクト「(4) つながる・支える地域コミュニティ」】

- ・地域包括支援センターとエリア担当職員が連携して、高齢者の居場所づくりに取り
組めないものか。例えば、地域包括支援センターの地域ケア会議に、エリア担当職
員に出席していただけないか。

⇒エリア担当職員といっても、福祉の分野ではない仕事をしている職員もいるし、日常の自分の業務を抱えながらエリア担当職員としての業務もこなしているので、現状では厳しい。

- ・地域にある居場所の情報を、地域包括支援センターに提供いただけないか。近所に仲間がいないのでデイサービスに行きたいという高齢者もいて、そういう人に地域の居場所の情報を届けることができれば、介護給付を減らすことにもつながる。地域包括支援センターとしても、そういう情報があれば高齢者に対する支援を充実させることができる。

⇒高齢者の居場所づくりも、地域包括支援センターも介護福祉課の所管業務なので、しっかりと情報を共有するよう、同課に伝える。

- ・指標で「市民参加型まちづくり1%システム支援事業における新規事業の採択数」を設定しているが、新規事業の数よりも全体の事業の数のほうがより重要である。新規は増えたが全体で減っているのでは本末転倒である。このことを担当課に伝えて欲しい。

⇒担当課に伝える。

なお、全体の事業の数については次回の会議でお示しする。

- ・若い世代が多い町会は、町会活動の担い手も多いが、そうでない町会もあって、子どもが少なく高齢者が多い、空き家が多いなど、町会ごとに事情は異なるので、このことに留意いただきたい。
- ・指標「町会加入率」が減少傾向であるが、これを見て「町会に入らなくても大丈夫なのではないか」と考える人も出てくると思う。加入につながるような取組は行っているのか。

⇒町会のPR動画の作成や、町会活動への支援を行うなどして、加入を促している。また、災害時の「共助」「防災」という観点からも町会は重要な存在であり、加入率を少しずつでも上昇させていくことが大切だと考えている。

- ・町会に加入することの必要性をもっとアピールするなどして、取り組んでいただきたい。
- ・町会の、役員でもない、新規に加入した人でもない、長く住んでいて町会に入っている人が、町会活動にもっと参加するようになる取組を盛り込んでいただきたい。

【リーディングプロジェクト「(5) 2025年に向けた早期対策の推進」】

- ・りんご産業イノベーション推進事業の評価が◎だが、普及して初めて◎になるのではないかと思う。一般の農家に普及するのはいつごろか。

⇒VR 剪定学習支援システムはこれから更に普及が進む段階。

機能性表示されたりんごは既に販売されており、◎の評価が妥当だと思う。

6 閉 会